昭和48年6月25日　理研会報

理研会報

発行
印教研　理科研究部
事務局
成田市成田950
成田小学校内

新年度を迎えて

研究部長　飯田　和幸

本格的なつゆを迎えましたが、先生方には益々ご健勝でご活躍のこととお喜び申し上げます。

諸先生方のたゆまぬ研修と努力の積み上げが、多方面にわたり実績をあげていただき今日を迎えることができました。日頃のご協力ご努力に感謝申し上げる次第です。

会報も回を重ね67号の発刊となりました。先生方の実践記録、研究の紹介、意見交換の場として、すべて全くの労力奉仕でここまでまいりました。誠に尊重なものといえましょう。これからも内容の充実に、また活用の頻度を高め、皆様の手でそだてあげていただきたいと思います。つきましても発刊のためご盡力いただきます方々幹事の皆さんに厚く御礼申し上げる次第です。今年度も先生方のご指示により、引き続き研究部の仕事に携わることになりました。73年代を迎え、いろいろ重要な課題があろうかと思います。地域社会の問題や、科学教育の占める範囲、こどもたちの学習のあゆみの主体性等、日頃指導上の問題に取りくんでおられる先生方とともに、より具体的にひとつひとつの課題を見つめ、解決し実践してゆくために研修の場を設定し、実践の積み上げに努力してまいりたいと思います。

ひとりひとりのもつ可能性を最大限に伸ばし創造性を高めるには教師が互に学び合う協力と努力によりもたらされるものと思います。特に今年度は改訂指導要領の実施が軌道に乗ってくる時期でもあり具体的な諸問題を取り上げ、検討し、より探究の過程を重視した指導を身につけてゆきたいものだと思います。したがって現場での研修に密着した条件をふまえ、地域活動を重視し、その充実をはかっていきたいと思います。

先生方のご活躍をお願い申し上げる次第です。

本年度役員・行事きまる

去る五月二十九日の研究部総会で次の通り役員ならび行事が決定しました。

役員

研究部長　飯田　和幸　酒々井小
副部長　飛田　喜男　富里南小
〃　笠井　貞夫　佐倉中
顧問　牧野　正
〃　板橋　義夫
理事　岡崎　賢一　富里中
理事　柏熊　秀　富里小
〃　手塚　雪夫　八街中央中
〃　折目　高雄　富里小
〃　武藤　春正　成田小
〃　森沢　義明　白井才一小
〃　古谷　弘　根郷小
一部会長　石井　望　中央小
二部会長　平山　正一　成田中
三部会長　牧野　隆　印西中
四部会長　伊藤　忠夫　実住小

行事

・児童生徒理科作品展　10月27日～30日　於成田小
・教育研究推進　各部会より選ばれた研究事方式により進める。
・理研会報の発刊
・地方理科センターへの協力
・印教連指定研究学校への協力
・研修活動の推進

理科室経営の留意点と問題点

成田小　徳田　進

生き生きとした楽しい学習の場としての理科室を目ざすとき、いろいろな悩みが出てくる。備品の不足やビーカー・温度計等が消息不明になったりして各教室をさがしまわることもある。そこで次のような点に留意し、経営管理していきたいと考えている。

① 学習の能率化をはかる。

ア.備品、消耗品の充実計画
・月一回（月末）定期的に備品点検をして整理・修理し不足を補う。
イ.薬品保管
・危険を伴う薬品については特に子どもに取り扱わせないとともに薬品庫に保管する。
・レッテルで明示する。
ウ.備品の帯出
教室での実験観察のため帯出する備品類については、帯出箱と黒板を利用し、明確にする。

月日	年組	備品名	教室

エ.事故防止
けがのないように全教師に次のようなことについて共通理解をはかる。
・ガスの元栓（教師が開閉）
・消火器の用意
・破損したガラス器具や、あきびん類のすてる容器を分ける。
・薬品庫のカギを所定の位置におき、使用時だけ開けるようにする。
・電熱器の管理
・使用後のマッチの軸木は所定のあきかん、灰皿に入れる。
オ.備品・消耗品の処分と補充
ビーカーや試験管等の破損は大変多いので、使用法や注意事項を教師や子どもに徹底させる。また常時補充する。
カ.器具類の配置
理科室や準備室のどこに何があるかをわかりやすく、しかも活用しやすいように、頻度形態・軽重等を考慮して配置のくふうをする。
例　レッテルでの明示

② 問題点と今後の方策
ほんものの授業を求めればもるほど、時間と器材が不足してくる。そこで次のような点に努力していきたい。
イ.自作教具の充実
ロ.校内実技研修会の実施により実験指導の効果的なくふう。
ハ.施設・設備の充実
・教科コーナー・観察園等の充実
・実験器具の整備
・作品展示場の作製

生物教材についての雑感

富里中　本橋　茂次

生物の授業においては、他の教材とくらべ、生命のあるものを取り扱っている点が著るしく異なることである。この生物教材の扱い方が中学校において十分な教材の確保と指導がなされていないようである。物理・化学の分野は実験器具が各校とも、だいたいそろっているので実験も多く行われているようである。その反面、生物は我々の周囲にあり、すぐにできそうでありながら実験準備や結果がでるまでに時間がかかるため、ついやらずに話や図解の説明で終らせてしまうきらいがある。都市の学校と異なり、自然環境には恵まれているのであるから、計画的に準備して指導したいものである。そこで以下考えることを述べてみたい。

教材園について

教材園については学校全体が教材園であることを忘れてはならない。とくに理科教室の周囲全体を教材園とし、学問探究の雰囲気を醸していくことが大切である。種類は教科書に記載されているものを集めて植えるようにしたい。庭園的な高価な設計によるものはかえって利用しにくいものである。

観察の都度、教室より引率するのは時間がかかるので授業に必要なものは一部鉢植えにしておき、そのまま土中に埋めておくと灌水の必要がなく都合がよい。

教材園を庭園と考え「雑草はきれいに除草しなければ」という考えは理科では通用しないと思う。雑草も大切な教材であり、むやみに除草したり、非選択性の除草剤を使用することは厳にいましめるべきである。

いま一度、自分の学校の教材園を見なおして、利用度が上るようにくふうしたいものです。

あとがき

○本年度の第一号をおとどけします。

○一学期もあと一日たらずで夏休みに入ります。そろそろ、夏休みの自由研究の課題など、子ども達と考える時期になりました。

○新教材のくふう、私の読んだ本、理科教育についての感想などどしどしお寄せ下さい。